

神経生理学教室です。例年通り、メンバーに自由に書いていただきました、コロナの影響が近況報告以外が増えた印象です。ぜひご覧になってください。

### 田中真樹（教授）

この原稿を書いている 2020 年 11 月で私が当教室を主宰するようになって 10 年が経ちました。早いようでもありますが、思い返すと本当にいろいろなことがありました。時折、当教室の卒業生が国内外で活躍しているのをみて、大変心強く感じています。次の 10 年も霊長類を対象に大脳連合野機能とそれを支える皮質下信号の解析を中心に進めていく予定ですが、分子ツールや多点同時記録など新しい技術の導入にも挑戦していきたいと考えています。脳のしくみに興味のある方はぜひ一緒にやりましょう。

さて、今年はコロナ禍で大変な一年となりましたが、教室内にもいろいろな動きがありました。1 月には**鈴木**助教が退職してロックフェラー大学に留学しました。渡米してすぐにロックダウンとなり心配していましたが、6 月頃からは研究も進みだし、今は充実した忙しい毎日を送っているようです。4 月には研究生の**李**さんと国試を無事に終えた**新川**くんが博士課程に進学しました。それぞれすでに数頭のサルを相手に日々奮闘しています。10 月には**岡田**助教が阪大から赴任してきました。これまでは技術的に難しい脳幹からの神経活動記録をはじめ、サルを使った視床痛モデルの作成や経頭蓋磁気刺激実験、統合失調症の眼球運動解析など手広くやってきたこの分野のエキスパートです。最近では教室の道内出身者率が高まる一方だったので、その意味でも新しい風を吹き込んでくれるものと期待しています。

これまでのメンバーも事務補助員の**鈴木**さん、研究補助員の**宮口**さんのサポートのもと、引き続きそれぞれの研究を進めています。**松山**院生は運動性視床、**亀田**院生は線条体と小脳での研究成果を博士論文にまとめる時期となりました。二人ともまだ原著論文を出し切っていないので、引き続きしっかり頑張ってくださいと思います。**竹谷**助教、**澤頭**院生もそれぞれ小脳と前頭連合野の研究を進めています。また、今年は学部 2 年の**安部**くんが留年をきっかけに毎日熱心に実験に参加するようになり、**亀田**院生の指導の下、どんどん成長を続けています。他にも 6 年の**中村**くん、4 年の**土田**くん、**牛田**くん、3 年の**菅原**さんなどが抄読会や教室内のイベントに積極的に参加しています。こうした中から将来の医学研究者・脳科学者が現れることを願っています。

今年は公私ともに行動が制限されることの多い一年でしたが、出張がなくなり、会議や講義がオンライン化して少し楽になったのも事実です。私生活では軽くジョギングなども始め、カラフトマスもたくさんゲットしました。コロナ禍を無事に乗り越え、来年も良い年にしたいと思います。

#### 岡田研一（助教）

10月1日から神経生理学教室のメンバーに加わりました。これまでは大阪大学で、同じように神経生理の研究をしたり、医学部の先生方との共同研究で脳神経疾患の患者さんの眼球運動の研究をしたりしていました。20年近く大阪に住んでいましたが、生まれは東京で関西人ではありません。早くも雪で白くなった外の景色を見ながら、初体験の札幌の冬に戦々恐々としています。

#### 竹谷隆司（助教）

今年度末に一身上の都合により北大を退職いたします。大学院を含めると10年と少しお世話になりました。特に医学研究院で過ごした数年はこれまでで最も充実した時間でした。研究は月で石を積むような清潔で孤独で独特の代えがたい経験でした。私が積んだ石が、やがて大きな構造物の一部となるとしたら、これほどのことはありません。直接お会いできなかった方にこの場を借りてご挨拶させていただきます。ありがとうございました。

#### 鈴木真理（事務補助員）

コロナ禍でステイホームの生活が続き愛犬とともにすっかりコロナ太りになってしまいました。

普段通りの日常のありがたさを実感する年になりました。

キャンパスも紅葉づき、ようやく大学も始まります。

エゾリスが飛び跳ね、鴨がゆったりと泳ぐ自然豊かな北大で、新入生の皆さんが学生生活を楽しめるように願っています。

栗鼠の尾のひときは太き今朝の秋

#### 宮口尚絵（技術補助員）

あつ森で息子の島民となり、釣りや潜り、カブ取引でベルを稼ぎ、島建設に募金。さして楽しくもないのに毎日やっている。これがハマるという状態?!

#### 松山圭（博士4年）

今年はコロナの年として記憶される年だと思います。いろいろなことが移り変わることに改めて気がつかされました。自分としてもいろいろなことが変化する中で、いくつかのことは変わらないことも自覚しました。今年一年を通してみると少しは前に進むことができたかなと思います。今は論文を投稿して、学位審査の準備を進めているところです。来年がどうなるかはまだ分かっていませんが、少しずつ良い方向に向かっていきたいと思っています。

#### **亀田将史**（博士4年）

自粛中は大変でしたが、オンライン飲みなどで普段会わない友人との交流が増えたことはよかったです。

#### **澤頭亮**（博士3年）

近頃、もうすぐ3歳になる長男の成長発達が著しい。恐竜の複雑な絵柄が描かれた100ピース程のパズルを渡そうものなら、あっという間に完成させてしまう。少し意地悪をして、絵柄が見えないように逆さまにしてピースを渡したとしても、すぐに目的の場所にピースを当てはめることができる。どうやら絵柄だけでなく、ピースの形そのものと場所の対応づけをしているようである。彼は、パズルを完成させては壊し、完成させては壊し...これを1日に何十回と繰り返すのである。好きこそ物の上手なれ。

#### **李麗**（博士1年）

ナボコフの『青白い炎』を読んでいて、最初は少しつまらないです…

#### **新川幸一郎**（博士1年）

何とか国家試験に合格して卒業し、正式に院生になりました。

CHAINと脳科学専攻にも参加することになり、学際的な勉強をしつつもそれを神経生理学研究に活かしていければと思っています。

#### **中村俊太郎**（6年）

教室に通わせていただくようになり早くも4年が過ぎ、気づけば卒業年となってしまいました。今年はコロナウイルスの流行の中、あわただしく日々が過ぎていき、月日の流れの速さに驚いております。ここの教室で学ばせていただいたことは学生時代の大きな財産となりました。この経験を糧に、来年以降は社会人として日々精進したいと考えております。

#### **土田直司**（4年）

学部生ですが、神経・精神疾患や心理・知能の問題に関心をもつなかで、実際の動物の体内で何が生じているかを実験的に理解したいと思っており、抄読会や輪読会に参加させていただいております。いつも白熱した議論が交わされており、大変ながらも勉強になります。個人的には、今年は、CBT・OSCEに合格したり、(神経生理ではないですが)ファーストで書いた論文がScientific Reports誌にacceptされるなど、色々なことができました。COVID-19で在宅生活が長くなり、趣味のプールとかにも行けず、少し太ったりもしました。早く生活が元に戻ってほしいなあと思います。

**安部楓**（2年）

幸か不幸か空いた一年。躍進の年にしたいものです。

今年はコロナの影響が大きな年でした。そのせいか新たに通っている学部生も増えました。  
来年はどのような一年になるのか楽しみです。

（文責 新川）